

野菜農家の巡回激励会

農業を変えたパイプハウス

野菜農家の巡回激励会が、久慈地方農業農村活性化推進協議会（会長・久慈市長 山内隆文）主催で七月三十日、行われました。

久慈地方の農家は、この地方特有の「ヤマセ」の影響を受け、たびたび冷害に悩まされてきました。しかし、野菜、



ハウス前でホウレンソウ栽培の夢を語る見嶽さん夫婦

花き栽培の施設化（パイプハウス）で「ヤマセ」を克服する取り組みが進み、基幹となるホウレンソウは出荷量、販売額とも昨年度に続き二年連続販売額十億円を達成。

「キュウリ、シイタケなどを合わせた園芸品目の販売額は十一億八千万円と生産額は順調に伸び「元気のある産地」として注目されており、地域農家の生産意欲がさらに高まっています。

一方、農業問題や価格低迷

など、生産者を取り巻く環境は厳しく消費地から信頼される足腰の強い園芸産地としての育成が新たな課題となっています。生産者を励ますため、山口和彦久慈地方振興局長、片座亮一いわて久慈農協代表理事組合長、深渡宏村長ほか農業指導関係者が野菜生産者を巡回しました。

村の野菜生産者の一人丹治春行さん（六五・堀内机）は、雨よけホウレンソウ主体で経営してきましたが冬季の所得確保のため、寒じめホウレンソウの栽培を積極的に取り入れた経営を行っています。今年、ホウレンソウ六棟（三十坪ハウス）を五回転、寒じめホウレンソウ二丁を経営。

丹治さんは「農業は年齢が高くなればなるほど肉体的には本当に大変。でも、いい物が収穫できたときは楽しいし頑張る力が湧いてくる」と、笑顔を向け

てくれました。

佐々木政勝農政部長、深渡村長ほか農業指導関係者一行は、萩牛でホウレンソウハウス（十一棟）を経営している見嶽重次郎さん（六四）と茂市の山崎確巳さん（五〇）、ホウレンソウハウス十二棟）を巡回訪問、激励しました。



深渡村長（左）から激励証を手渡され、「頑張ります」と笑顔で応える丹治さん夫婦（中央）



2003 ふだい 10月5日（日）

まるごと海産まつり

活魚つかみ取り大会

100名様限定！
＜鮭・タコ・平目・イナダ他＞
参加料：1,000円

サケ汁食べ放題

アトラクションも
見逃せないよ！

70名様
限定！

網おこし体験
（獲れたて鮮魚プレゼント！）

●参加料：1,000円

イベントのお申し込み
お問い合わせ

実行委員会事務局
普代村役場建設水産課

Tel.0194-35-2116
Fax.0194-35-3017

E-mail:kensetu@vill.fudai.iwate.jp

会場

太田名部漁港